

海外生活 エッセー

ソウル事務所

韓国は子育てしやすい国！

(一財)自治体国際化協会ソウル事務所所長補佐 森本 哲夫 (鳥取県派遣)

子供を持つ親にとって、子育て環境は重要な関心事項の一つです。

今回は、ソウルで暮らしてみて知った子育て環境、特に生活の拠点であるアパートにおける整備状況について紹介します。

→ アパートは一つの街

韓国に訪れる多くの人は、飛行機から眼下に広がるソウル近郊の街並みを見て、林立するアパート群（日本でいうマンションは韓国ではアパートと称される）の多さに圧倒されます。

人口約 5,100 万人の韓国では、その約 9 割がソウルやプサンなどの都市部に住み、また全体の 5 割の約 2,500 万人がソウルとその周辺の地域に集中して暮らしています。限られた空間で多くの人が生活できる高層アパートを中心とした都市設計・開発を行っており、今では敷地内に数棟のアパートのほか、公園や保育園、カフェなども一体的に整備し、一つの「街」を形成しているアパート群をよく見かけます。

→ 公園事情

私が住むアパートの敷地内にも公園施設が数か所あり、公園間を追いかけっこや自転車で移動する子供たちをよく見かけますが、親が傍にいないことが多々あることに気づきます。子供の居場所や安全が気になるところですが、公園施設毎に監視カメラが設置されていて、自宅のテレビから 1 画面で全ての公園施設の



施設内の公園

状況が見渡せるようになっています。家の中からわが子の安全を確認している親が大勢いるのかもしれませんが。

また、遊具施設などの下には「弾性ゴムマット」が敷いてあります。私の地元鳥取県ではあまり見かけた記憶がありませんが、ソウルでいくつか見た公園の遊具施設などの下には必ずゴムマットが敷いてあり、安全に対する取り組みがしっかりなされています。

→ 保育料が無料

300 世帯以上が入居するアパート群は、国土交通部が定める「住宅建設基準などに関する規程」によりオリニチプ（保育園）の設置が義務付けられています。さらに、保育料については、2013 年までは満 2 歳以下が無料でしたが、パク・クネ政権下で拡大された「満 5 歳以下の乳幼児の保育無償化」により、現在は満 5 歳まで無料で利用できます。（2016 年 5 月時点）



オリニチプ（保育園）

また、昨年、乳幼児保育法が改正され、保育園に CCTV（監視カメラ）の設置が義務付けられました。私が訪問したオリニチプでも各部屋に監視カメラが設置され、職員室で常に全体の状況が把握でき、有事の際は警察が駆けつける体制が整っています。

韓国ではさまざまな場面で IT 技術などを活用した安全への取り組みが行われていますね。



保育園の CCTV